

分科会要旨

分科会 A

【テーマ】「図書館再生」

【要 旨】

物理的な「モノ」に永遠はない。それは建物も同じである。使っているうちに、傷みが生じ、必ず摩耗消耗する。日本において築 100 年を超える建物は稀であって、ほとんどが数十年で建て直されるか、大幅な改修が施される。その際、高い投資をするのであるから、現状の問題を解決し、且つ、将来にも対応し得ることを見込んだものにするのが一般的といえる。このことから、建物の立て直しや大幅改修をみると、現状の問題点と想定された未来とを垣間見ることができるといえる。図書館の建て替え、大幅改修は、図書館が生まれ変わる機会とも考えられることから、この分科会ではそれを「図書館再生」と呼ぶこととした。

未来について関心が高いのは、医学図書館もそのひとつであろう。今の医学図書館は、資料の電子化により、その存在意義や提供するサービスが過去とは大きく変わってきている。そのため医学図書館は、将来、どのような形となるのか、どのようなサービスを提供するのか、図書館員は必要とされるのか、これらの疑問は、医学図書館員の心に常に覆い被さっているが、その答えを模索している。

そこでこの分科会では、近年、建て替えや大幅改修を行った事例から、医学図書館の今後の方向性を探ることを試みることにした。事例は獨協医科大学図書館、金沢大学附属図書館医学図書館、千葉メディカルセンター図書室、KMLA の 4 つの図書館にお願いした。

4 つの図書館の建て替え、大幅改修には、それぞれの施設の事情があり、その考えに普遍性はないかもしれないが、いくつかの事例が集まることでそこから共通のキーワードを抽出できれば、今の医学図書館が考え得る未来像を知る手掛かりになるかもしれない。資料がアナログからデジタルへ移行する今の医学図書館の再生はどのように進んでいくのか、4 つの事例から考えたい。

【座長】

東邦大学医学メディアセンター

児玉 閲

【話題提供者】

獨協医科大学図書館

森戸 重男

金沢大学情報部情報サービス課中央図書館係

中本 悦子

千葉メディカルセンター図書室

奥出 麻里

韓国医学図書館協議会 (KMLA)

調整中

【コーディネーター】

東邦大学医学メディアセンター

児玉 閲

分科会 B

【テーマ】「究極のディスプレイ術を学ぶ」

【要 旨】

図書館サービスの対象である「資料」と「人」を結ぶ工夫はいつの時代でも欠くことのできないものです。そして、電子化により資料の形態やサービスのかたちに変化が見られる現在でも、やはり、その代表的な手法はディスプレイであると思われます。ディスプレイには、見せる、展示する、表示する、飾る、などの意味がありますが、図書館サービスにおけるその目的は、「人」を「資料」に“導き、つなぐ”ためにするところにあります。本分科会では、図書館の仕事の原点ともいえる「展示」と「配架」に焦点をあて、ディスプレイ術を究めることを目標とします。

書店関係 2 社に話題提供をお願いしました。書店は商品である書籍を選書し仕入れ、展示・陳列することでいかに見せるか（手に取ってもらうか）に心を砕いています。それだけでも興味深い（知られざる！）奥義がうかがえそうですが、昨今の書店は、読書術あるいは読書体験を養う場であり、多岐にわたる情報を分類・整理・編集して、新しい価値を生み出し共有する場であるともいいます。（図書館と同じではありませんか！）ともあれ、その手法や戦略から図書館員が学ぶことは多いと思われます。

次いで、公共図書館と JMLA 会員館からそれぞれの仕事を紹介していただきます。企画展示やイベントなど、ディスプレイを駆使した利用者サービスは公共図書館では欠くことのできないものです。また、会員のなかには、独自性ある（知る人ぞ知る！）企画展示と電子化の連携に取り組んでいる館があります。本や資料を“魅せる”ためのコンセプト（概念、構想、テーマ）の定め方、そのコンセプトに見合う棚作りや選書の考え方、さらに広報の方法など、貴重な実践例が期待できます。

参加者のみなさんに、さまざまな視点や発想を提供できれば幸いです。

【座長】

独立行政法人科学技術振興機構 知識基盤情報部

加藤 斉史

【話題提供者】

株式会社紀伊國屋書店 首都圏北・東北地区店売部長兼前橋店長

中村 健二

株式会社編集工学研究所 代表取締役社長

野村 育弘

川崎市立宮前図書館 係長

舟田 彰

名古屋大学附属図書館医学部分館 特任専門員

蒲生 英博

【コーディネーター】

正会員個人

坪内 政義

分科会 C

【テーマ】『Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014』を学ぶ

【要 旨】

昨年、7年振りに日本医療機能評価機構 EBM 普及推進事業、Minds : Medical Information Network Distribution Service が提唱する「診療ガイドラインの作成の手引き」が改訂された。この7年の間に診療ガイドラインの作成方法は世界的に大きく進展し、アウトカム毎にシステマティックレビューを行い「エビデンス総体(Body of Evidence)」に基づいて推奨を作成するという流れを取り入れた内容となっている。現在 Minds では年4回実習形式のワークショップを行い新しい作成方法の普及を行っているが、受講できる人数に限りがあるため、原則として受講対象者は“ガイドライン作成者”に限られている。

本分科会は実習を伴わない、参加者に制限の無い、新しい診療ガイドラインの作成方法を学ぶ機会として企画した。午前・午後を通してワークショップで行っている講義に加え、「準備 (COI、患者市民参加含む)」や「最終化・普及・活用・改訂」の講義も行うフルコースの内容とした。

図書館員はもちろん、診療ガイドラインを出版している出版社の編集者・書店関係者、これから診療ガイドライン作成を予定している・または関心を持っている医療者、患者・市民などが参加できる公開セミナーとする。

プログラム

C-1 (午前)

診療ガイドライン作成総論

準備 (COI、患者市民参加含む)

スコープ作成

システマティックレビュー総論

C-2 (午後)

エビデンスの検索

エビデンスの評価と統合

推奨作成

最終化・普及・活用・改訂

【司 会】

杏林大学医学図書館

諏訪部 直子

【講 師】

公益財団法人日本医療機能評価機構

奥村 晃子、河合 富士美、清原 康介、畠山 洋輔、森實 敏夫、山口 直人、
吉田 雅博

【コーディネーター】

聖路加国際大学学術情報センター

河合 富士美

杏林大学医学図書館

諏訪部 直子